

【近畿コンソーシアム・学生による ESD 活動支援】  
富雄北小学校 野外活動支援 活動報告書

家庭科教育専修 2 回生 安井 優美

1. 実施日 2024 年 6 月 11 日(火)17:00~20:30
2. 場所 青少年野外活動センター
3. 参加者 社会科教育専修 3 回生 木幡 美幸  
音楽教育専修 3 回生 藤原 あかり  
教育学専修 2 回生 福原 千畝  
家庭科教育専修 2 回生 安井 優美



キャンプファイヤー終了後の焚き火

#### 4. 活動内容の概要

富雄北小学校の児童が野外活動の最後に行うキャンプファイヤーの支援を主に行った。冒頭の点火の際には、児童への松明の譲渡や点火時の誘導、点火後の松明の回収などを行った。また、児童たちが行うスタンプを盛り上げるため、声出しをしたり、焚き火に児童が近づかないように安全を確保したり、ゲームに参加し交流を深めたりなどした。

臨機応変に対応しなければいけない場面が多々あったが、児童の言動や状況を瞬時に捉え、それぞれが自分の役割を見つけ出し、主体的に行動することができた。

#### 5. 参加学生の学び・感想

学んだことは二つある。1つ目は、キャンプファイヤー時の安全管理だ。火に近づく児童が多く、声掛けは意識していた。しかし、声をかけた上で、とっさに体を使って止めても危ない場面があった。そのため、児童の危険な行動にもう少し早く気づくこと、気づいた瞬間に体を使うことを意識していきたい。2つ目は、雰囲気づくりだ。キャンプファイヤーを楽しむことも重要だが、落ち着かなければならない場面もある。児童が、落ち着いてキャンプファイヤーに参加できるように声掛けの仕方や環境を整えることを工夫していきたい。(社会科教育専修 3 回生 木幡美幸)

今回の野活では見守ることの大切さを学んだ。到着したとき、子どもたちはちょうど夕食を食べ始めるところで、予定にはなかった飯盒炊爨の手伝いをすることができた。スケジュールがおしているとのことで片付けの手伝いを申し出たが、「洗にくいことを学ぶことが大切」と先生がおっしゃり、危うく子どもたちの学びの機会を奪うところだったと気付かされた。思い通りでなくても見守ることができる余裕こそ、子どもたちの成長を促すのだと感じた。(美術教育専修 3 回生 藤原萌)

私は今回の野外活動で児童への声かけの仕方について学んだ。野外炊飯のときに何をすればいいかわからず手持ち無沙汰になっている児童に対して「今何かできることあるかな」「これしてみよう」などの声かけをしたり、火に近づきすぎている児童に対して「危ないからちょっと下がろう」と声をかけたりすることができた。逆に先生が大切な話をしていたり、厳かな雰囲気を作らなければいけなかったりする静かにしなければならぬときに児童がざわざわしていたが、「今静かにするときだよ」「先生のお話聞こう」などの声かけをすることができなかった。適切なタイミングで適切な声かけができるようにこれから勉強していきたい。(教育学専修 2 回生 福原千畝)

私は今回の野外活動支援に参加して、児童への声掛けの大切さを学んだ。キャンプファイヤーの時、火に近づく児童に対して、危ないから離れるように声掛けをした。また、静かにしなければならぬ場面で、喋らないように注意をした。全体が眠わって教師の指示が通りにくい中で、児童の安全を守り、活動をより良いものにするために、私たちの声掛けは重要な役割を果たしていると学んだ。今後の活動でも、児童への声掛けを大切にしていきたい。

(家庭科教育専修 2 回生 安井優美)